



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社キャステム (A)

5

会社概要

株式会社キャステム（以下、キャステム）は広島県福山市に本社（写真 1）を置き、中小物の精密
 10 鑄造部品・射出焼結部品を製造・販売するメーカーである。独自の技術を活かして、顧客製品の部
 品の品質、強度、コストなどの課題を示し、解決するための部品を提供することが主な事業であり、そ
 の範囲は航空宇宙・自動車関連分野、ハイテク産業向けなどあらゆる業界の金属部品製造に広がっ
 ている。身近なものとして、胃カメラの部品、新幹線 N700 系のトイレの錠、ロープウェイの圧索部（ロー
 プにぶら下がるためのアーム部分）などが挙げられる。主に少量から中量品の製造を得意としている。

1948 年（昭和 23 年）に製菓業として創業し、カステラやチョコレート等で事業を拡大させる中で、
 15 お菓子を生産する際に必要な設備を内製し始めたことが今のキャステムの原点である。その後、製菓機
 械の保全を担っていた部門でロストワックス精密鑄造を開始、1970 年に鑄造部門を別会社として独立さ
 せた。付属資料 1 に会社概要を、付属資料 2 に会社の沿革を示してある。

国内外にグループネットワークを持ち、国内では広島県福山市の本社に生産拠点と営業部を、横浜・
 北関東・立川・大阪・名古屋の 5 か所に営業支店を有している（付属資料 3 に組織図を示してある）。
 20 海外ではフィリピンとタイに生産・販売拠点をもち、2015 年には南米のコロンビアにも進出するなど、
 広く事業を展開している。顧客は約 2,000 社で、現在は受注した製品の約 90%を海外で製造しており、
 本社での製造は、試験品や新しい製法の製品、国内製造を指定する顧客向けの製品などの約 10%で
 ある。資本金 7,996 万円、グループ連結売上高は約 68 億円（2018 年 3 月期）、従業員数約 270 名
 （海外拠点を含めると約 1,400 名）である。付属資料 4 に売上高の推移を示してあり、これまで数回の
 25 倒産の危機を乗り越え、斜陽産業と言われる鑄造業の中で成長を実現している会社である。

キャステムでは金型製造から鑄造、仕上げ、検査まで一貫生産する体制を整えており、創業以来蓄

本ケースは、2019 年 3 月時点の情報に基づき、表題企業の全面的な協力を得て、慶應義塾大学大学院経営管理研究
 科のヤング千帆佳（M39）、市来寄治専任講師、河野宏和教授が作成したものである。本ケースは、クラス討議の資料と
 して用いるためのもので、経営管理の巧緻を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学
 ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.
 keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部
 分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録
 音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright © ヤング千帆佳、市来寄治、河野宏和（2019 年 6 月作成）